

ゼミ活動報告

『CORE学生論文2013表彰式と発表会』が行われました

氏名 松野 峻典

10月17日、『CORE学生論文2013表彰式と発表会』が行われました。宮川ゼミからは、最優秀論文が一本、優秀論文が一本入選し、私はboiled fish pasteチームの一員として最優秀論文賞を頂きました。今年は300人もの学生が集まる中で表彰式と研究内容のプレゼンテーションがあり、私は気持ちと服装に気合を入れて式に臨みました。



思えばこの研究を進めていた頃から、もう1年が経ちます。COREの研究はロジカルシンキングのプレゼンや企業分析とは異なり、テーマも何も与えられていない状態からスタートします。普段与えられたものに取り組むことが多い私たちにとって、0から研究を創り上げていくことは想像以上に難しいことでした。テーマの決定や仮説の設定、変数の設定、検証、様々な場面で思うように進まず毎日のように悩みました。それでも、最後まで研究をやり遂げられたのは、宮川先生や太田さん、先輩方、2期生のみんながいてくださったからです。特に同じチームの小寺、苅谷、星野は苦しい時期にも色々と助けてもらいました。ありがとう！



ところで、『思考がドライブする』という言葉みなさんご存知でしょうか？表彰式のプレゼンの中でゼミ幹の星野がこの言葉について熱く語り、話題となりましたね。この言葉はおそらく今年のゼミの流行語にノミネートされると思います（笑）。少し聞いただけではただのカッコいい言葉にしか思えないかもしれませんが、でも、この言葉や感覚、私は、本当はすごく大切なものだと思います。多くの人が共に議論に参加する

ことによって、1人の意見が別の人の意見を生み、それがまた別の人の意見を生む。そうした議論が積み重なっていく中で、どんどんと違う考えが出てくる。それもどんどんとレベルの高い考えになっていく。結果として、自分の思考も議論の前とは比べ物にならないくらいに深く洗練されたものになる。それが「思考がドライブする」ということだと私は認

識しています。



今回の研究では様々な方に助けて頂いたということを上述しましたが、毎週ゼミ全体で議論することにより自分1人、チーム4人では出てこない発想や思考が生み出されるというのは「思考がドライブする」ことそのものです。そうやって全員が全チームの研究に関わっていたからこそ、各々の研究がよりレベルの高いモノになったのだと思いますし、もし今回、宮川ゼミの他のチームが最優秀賞を頂いていたとしても悔しいどころか、素直に喜びを共有できただろうなと思います。CORE論文に限らず宮川ゼミではこの現象が毎週のように起きています。こうした議論ができることも宮川ゼミならではの特徴ではないかと思えます。

さて、宮川ゼミは今回で2年連続CORE論文最優秀賞受賞となりました。今3期生が去年の自分達と同じく毎日のように集まり研究を進めています。そうした姿を見ると来年度の表彰式にも期待が持てそうです。苦しい時や辛い時は必ずあると思いますが、チーム全員そして宮川ゼミ全員がみなさんの味方です。一緒に思考をドライブさせて最後までやり抜きましょう！！長くなりましたが、以上で今回のイベント報告を終わります。

さて、宮川ゼミは今回で2年連続CORE論文最優秀賞受賞となりました。今3期生が去年の自分達と同じく毎日のように集まり研究を進めています。そうした姿を見ると来年度の表彰式にも期待が持てそうです。苦しい時や辛い時は必ずあると思いますが、チーム全員そして宮川ゼミ全員がみなさんの味方です。一緒に思考をドライブさせて最後までやり抜きましょう！！長くなりましたが、以上で今回のイベント報告を終わります。



10/17 (木)

『CORE学生論文2013』表彰式と発表会が大阪市立大学730教室で行われました。宮川ゼミからは以下2つの論文が入選しました。

<最優秀論文賞>

『Slack 型 R&D 戦略が企業価値に及ぼす影響』

苅谷萌 小嵯梨沙 星野裕成 松野峻典

<優秀論文賞>

『なにわ漫才式フレームワークに基づくポートフォリオの構築

—企業価値に影響を与える「ボケ・ツッコミ」メカニズムの応用理論—』

小野夏実 蔵田美優 中川亜也羽 前田晃治